

ふ風になつて仕舞つても困る。乍然譯者に深い理解のあることは疑もないことである。理解なくては斯くまで要點を摘出して行くことは出来ない。梗概紹介を以つて目的とせられてゐるならば上乘の出来榮えと稱せられるであらう。明快にして滯滞なき原文を讀む様な氣分をもつて譯文にも接せられるからである。各章下節の題は原著には無いのを大意を捕捉して新たに添附せられたことは讀者にとつて幸はせなことである。卷末に原著のと較べては簡ではあるが索引と、又別にロイス小傳及主要なる著作目録とがある。全卷に亘つて餘り少くはない誤字は再版には除かれることと思ふ。計吾に接して記憶を新たにせらるゝ際、本書の出たことを喜ばないわけにゆかぬ。(尾生光三郎)(四六判三二七頁並附録、麴町平河町五洛陽堂、發行定價壹圓參拾錢)

### 金剛心

文學博士 富士川 游著  
醫學博士

近年特に親鸞聖人の教に隨喜する博士の各所の講演を輯録したのが此小冊子である。眞宗の信仰に入る筋道と其味ひ方の大要を平易に組織立て、百頁足らずの間に叙してある。僧侶でも宗學者でもないと斷はられた博士にしては、其内容に於て教義上の欠點もなく、如來廻向の三心を説く邊りは眞宗に對する理解の淺からぬことを示して居る。唯然し阿彌陀佛を文字通りの久遠の親と見たり、又我身が父母細胞の遺傳であるの故を以て、直に業種因縁の繁縛を脱し得ないものとする如きは、常に博士の思想の根底をなして居るヘツケル流の物質的一元論に基くものらしく、そこから如何にして正當な意味の罪惡觀が出るか、又それが如何にして往

生思想と調和し得るか危まれる。殊に宗教の要は唯感情や意思の安定を得る爲めに神佛の教として外から命ぜられたものに従ふに在るといふのは、眞宗の教旨としては勿論、所謂人格の統一の爲めにも果して幾何の價値があるうか。之を以て直ちに金剛心なりとするが如きは大に其當を失して居る。要するに全體として信仰の動機、旨趣が根本的に明瞭でないのは博士に對する吾人の期待に背くこと甚しい。之を以て在來の信者への誠めとするならばとにかく、博士の希望の如く智識階級に對する勸化としては全く無意味である。附録の眞宗綱領の文類は初心の人へのカテキズムとして便利であらう。(宇野圓空) 麴町區平河町五、洛陽堂發行 定價金五十錢。

### 言語及讀方の基本的研究

文學博士 小西重 直校閱  
文學士 田中廣 吉著

著者は已に『小學校に於ける實際的教授法』、『實際的教授訓練の基礎』及『信仰を基とせる道德的陶冶の研究』等を出されてあつて、教育教授法に造詣の深い事は教育界に廣く知らるゝ所である。元來著者は此の『言語及讀方の基本的研究』の序文に云つて居るゝ通り、教授法の研究に於て從來一般に「習慣的方法の整理に始まつて自己の獨斷に終」つて居る様な態度を脱し、「客觀的に具體的事實に就て實驗又は統計をなし其の結果を歸納」して其處に教授法の原理を建設する事に膺心して居られるのだが、先づ讀方教授法の基礎として、各種の方面より斯かる客觀的研究を試みら

れた結果を整理されたのが此の書である。全篇十七章九百頁に渡る大冊であるが先づ三部分に大別する事が出来ると思ふ第一は言語の發達に關する研究であつて、兒童の言語活動を理解する必要より言語及文字の種族的發達と言語中樞の機能とを精密に討究して、次に言語の個人的發達の論定に進んで居る。第二は讀方教材に關する研究であつて、先づ内外國讀本の形式内容の變遷を叙し序で讀方教材の形式的方面即文字文章は如何なる形式に表はせば讀み易くして疲勞少なきかの研究と、内容的方面即漸入兒童の觀念界、兒童の記憶の發達、想像の一般的特徴、理想人物の變遷、興味の變遷、及觀察力の發達によりて、讀本の内容及挿繪を如何に顯赫すべきかの研究とを含んで居る。第三は以上の研究よりして現今の小學讀本の形式的方面と内容的方面との改良に關する意見を述べられた部分である。各題目毎に廣く内外の研究殊に實驗統計の結果を沿革的に比較しつゝ、叙述し引用頗る豊富である、而して其の研究法と實驗の結果とは各適當なる批判を加へ、更に著者自身の工夫せられた研究法による多量の實驗統計の結果とを比較對照して、種々有益なる結論を出して居られる。由來此の種の研究に關して遺憾に堪へないのは著者も慨嘆して居らるゝ如く我邦に於ける實驗の甚だ乏しい事である、従つて著者の擧げられた引用例も外國のものゝ非常に豊富なるに比し我邦のものは割合に少ない、併し少ない中にも著者自身の實驗統計は中々多量である、殊に讀方の視覺的方面的研究に關する實驗は頗る精細である。望むらくは著者自身に益々此の種の實驗を積まれ、且つ著者の位置の必要とし又便宜なるによりして各地に行はれんとして居る實

驗統計の方法と結果とを指導批判して我邦に於ける正確なる實驗統計の結果を廣く多く集められたいものである、斯くして此の種の實驗の結果より導き出さるゝ結論は益々其の確實性を増すべきである。著者も謙遜して「余は此の結果の信仰を希ふよりも此の研究法を以て世に問ひ教授法の研究に向つて新方面の發展を希望するものである」と云つて居られる、蓋し此の書に於ける如き研究法によりて教授法の將來が著者等の開拓に缺つ事ゝ頗る大なるものがあるであらう。吾人は現今盛に主張せられながら割合に行はれて居ない『教授法の原理を正當に建設し得べき實驗的客觀的研究』の最も充實せる有益なる一書として教育界に推稱するものである。(西居靈證) 京橋區南傳馬町二丁目五、目黒書店發行、定價金二圓八十錢。

### 寄贈書籍雜誌

- |  |            |     |
|--|------------|-----|
| 宗教と人生  | 軌足理一郎著     | 洛陽堂 |
| 金剛心  | 富士川遊述      | 同   |
| 倫理綱界   | 文學士 木下四郎一著 | 同   |
| 法華經の行者白蓮   | 文學博士 姉崎正治著 | 博文館 |
| 哲學雜誌、心理研究、丁酉倫理會講演集、東洋哲學、六合雜誌、東亞之光、第三帝國、學校教育、教育、内外教育評論、普通教育、小學研究、教育研究、教育學術界、東京教育、奈良縣教育、靜岡縣教育時報、滋賀縣教育會雜誌、岐阜縣教育、三重教育、愛知教育雜誌、長崎縣教育雜誌、愛媛教育、信濃教育、佐賀縣教育、臺灣教育、 |            |     |